

# 第四十回 高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式



高円宮妃殿下から望月優作さんに高円宮杯が授与された



作品の前での記念撮影

高円宮妃殿下のご臨席を賜り、第40回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会・授賞式は、8月25日（日）、東京・千代田区の日本武道館において、盛大に開催された。

授賞式では、毛筆の部1万4098点、硬筆の部7326点の合計2万1424点の出品作品から選ばれた特別賞、優秀・優良団体賞の表彰が行われた。

展覧会には約900名が来場。授賞式には受賞者、関係者ら約600名が出席し、会場各所で賑わいがみられた。

授賞式では、高円宮賞受賞者の望月優作さん（茨城県・江戸川学園取手高等学校）

（校3年）を含む各特別賞受賞者259名、24団体（当日欠席者含む）が表彰された。

## ◇展覧会

展覧会は高円宮賞をはじめ、内閣総理大臣賞、日本武道館大賞、衆議院議長賞、参議院議長賞など特別賞受賞作品259点（毛筆173点・硬筆86点）ならびに本誌手本揮毫の先生方による特別出品作品（20点）が展示され、午前10時の開場と同時に多くの観覧者が来場した。

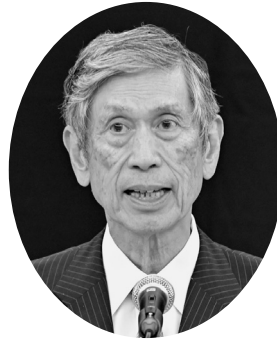
高円宮妃殿下は日本武道館にご到着されると、高村正彦大会会長（日本武道館会長）の先導で展覧会場へと向かわれ、最初に高円宮賞の作品をご鑑賞された。同賞受賞者の望月さんに優しくお言葉を掛けられた後、記念撮影を行い、その後各賞受賞者との記念撮影に笑顔で応じられるなど、和やかな雰囲気の中作品をご鑑賞された。



水谷尚人 文部科学省  
初等中等教育局視学官



川端達夫 大会副会長・  
日本武道館理事長



高村正彦 大会会長・  
日本武道館会長



高円宮妃殿下



保護者等関係者が多数来場した



壇上の受賞者に向けて大きな拍手が送られた



授賞式終了後も記念撮影をする姿が多くみられた

### ◇授賞式

授賞式は高円宮妃殿下ご臨席の下、午後1時から開始された。

はじめに、高村大会会長が主催者挨拶に立ち、「高円宮妃殿下のご臨席の栄を賜り、第四十回高円宮杯日本武道館書道大展覧会が盛大に開催されますことは、主催者として、大きな慶びであります。この展覧会は、昭和60年に第一回が開催され、我が国の書道展で唯一の高円宮杯を戴いております。本年度で第四十回を迎え、第三十八回から会場を日本武道館に移して、開催することとなりました。栄えある各賞に輝いた受賞者の皆

様に心からお慶びを申し上げます」と述べた。

続いて、高円宮妃殿下から、「書道は、我が国の長い歴史の中で洗練され、日本を代表する伝統文化として発展してまいりました。今日では、多くの国民に愛好され、海外でも高い評価を得て、人々の心に喜びや感動を与える重要な文化活動となっています。心を込めた筆づかいで、ひとつひとつの言葉を丁寧に書き上げていく書活動の中から、自ずと豊かな人間性が養われ、日本人としての自覚と誇りが高まってまいります。本日、数多くの作品の中から厳正な審査を経て、栄えあ

る高円宮賞を受賞された望月優作様をはじめ、受賞者の皆様、まことにおめでとうございます。これからも、日本の伝統文化を学習しているという誇りを胸に、ますますのご精進を期待いたします」とお言葉をいただいた。

次に、盛山正仁文部科学大臣の祝辞を水谷尚人文部科学省初等中等教育局視学官が代読し、「書写・書道は我が国が誇るべき伝統文化の一つです。文字を正しく整えて書く力を育み、その力を学習や生活の中で役立てる態度を育てる重要な学習です。本展覧会には、児童生徒や学生の皆さんの素晴らしい作品が数多く出





展覧会会場には多くの来場者が訪れた



厳粛な雰囲気の中、授賞式が開催された

品されたと同っており。皆さんの日々の努力の結晶であるこれらの作品は、我が国の書写・書道の水準を一層向上させることに寄与するものです。今後も皆さん

んが、書写・書道を通して、自らの可能性を最大限に発揮することを願うとともに、将来の予測が困難なこの時代においても、輝かしい未来を切り開いていくことを心から期待しています」と読み上げた。

表彰式では、最初に高村大会会長から高円宮賞受賞者の望月さんに賞状が、妃殿下からは高円宮杯がそれぞれ手渡され、会場からは大きな拍手が湧き起こった。引き続き内閣総理大臣賞をはじめとする各賞の表彰に移り、最後に団体賞の表彰が行われた。

すべての表彰後、加藤東陽大会審査部長から、「全国各地から多数ご出品をいただきありがとうございます。ユネスコ無形文化遺産への提案が決定しました書道が充実発展してまいりますよう、次回展でも素晴らしい作品が出品されますことを期待いたします」と講評を述べた。

続いて、受賞者を代表して高円宮賞受賞者の望月さんが謝辞を述べた（詳細は21頁）。

最後に、川端達夫大会副会長（日本武道館理事長）が、「ご指導いただいた先生方、あたたかく支え、応援してくれた家族への感謝を胸に、これからもますます精進して書の道を極めていただきたいと思います」と閉会の辞を述べ、授賞式は盛会のうちに終了した。

# 高円宮杯第四十回展受賞者代表謝辞（全文）



江戸川学園取手高等学校三年

望月 優作



受賞者を代表して望月さんが謝辞を読み上げ、川端理事長に謝辞を手渡した

受賞者を代表いたしましたして、一言お礼の言葉を申し上げます。本日伝統と格式ある第四十回高円宮杯日本武道館書道大展覧会において名譽ある表彰を賜りまして、私ども受賞者一同、この上ない喜びであり、身に余る光栄に存じます。

このような素晴らしい機会を与えてくださいました審査員の先生方、大会関係者の皆様、これまで熱心に微細にわたりご指導いただいている先生方、そして書に打ち込むことを応援し続けてくれている家族に深く感謝申し上げます。

私は小学一年生のとき、国語の授業でひらがなの形や成り立ちに強く興味を持ち、親の勧めで書道教室に通い始めました。教室の墨の香りと静かな緊張感がとても心地よく、教室に通う事が楽しみになり、先生のような美しく魅力的な字が書けるようになりたいという一心で、一生懸命練習を続けてまいりました。書道教室や学校を通して書道展に出品させていただくとき、何度も試行錯誤をしながら作品を作り上げる楽しさ、一本一本の線に集中し納得のいく作品が出来上がった時の充実感、その作品を多くの先生方や展覧会にいらした方に見ていただける事や講評をいただける事、すべてが私にとってと

ても大切な経験です。さらにできる限り多くの書道展に足を運び、諸先生方の作品や先輩仲間作品を拝見することが、新たに書に向き合ってもっと上達したいという気持ちを奮い起こすエネルギーとなっております。

今回は米芾べいふつの行書作品である蜀素帖しよくそじょうの臨書に挑戦しました。滞ることのない全体の流れの中、一字一字に線の太さや密度の変化のある抑揚をきかせた多彩な筆遣い、美しい字形に魅了され、圧倒されながらも自分なりに追究して作品を仕上げました。

今年受験生であり、限られた時間の中で作品を作るといふ難しさがありませんでしたが、これまで書に向き合ってきた日々の積み重ねと周囲の方々の支えが納得のいく作品へと繋がったのだと思います。

今回の受賞を励みとし、より一層の上達に向けて努力を続けてまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございます。

令和六年八月二十五日

受賞者代表

江戸川学園取手高等学校三年

望月 優作